

健康長寿社会を担う歯科医学教育改革 —死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制構築—

達成目標:口腔から全身健康に寄与できる歯科医師、及び、急性期、回復期、維持期、栄養サポートチーム(NST)、在宅介護現場をサポートできる歯科医師を育てる。また、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進できる歯科医師を育てる。

課題

1. 歯科医師は患者の死や人生に寄り添うことに慣れていない
2. 健康な患者に通常行われる歯科的診断と治療が要介護者にそのままあてはまらない
3. 急性期病棟での多職種連携実習や在宅介護実習の教育の場が不足
4. 教育機会が不均等で共通教育ツールが不足
5. 周術期管理や要介護高齢者における歯科的介入を支える臨床エビデンスや基礎的知見が不足

①講義シリーズ(連携大学共通, 6単位)

○口腔と全身健康の関わり(2単位), ○がんの化学療法や各種外科的介入等における周術期管理(2単位), ○老人介護施設や在宅介護医療における歯学教育, 死生学, 多職種連携, 地域包括ケア(2単位)

②シミュレーション・PBL演習

○全連携大学に要介護高齢者を模したシミュレータを配布, プレクリニカル演習を開発
○老人介護施設見学や地域医療人材育成講座の地域医療実習を利用したPBL演習を提供する。

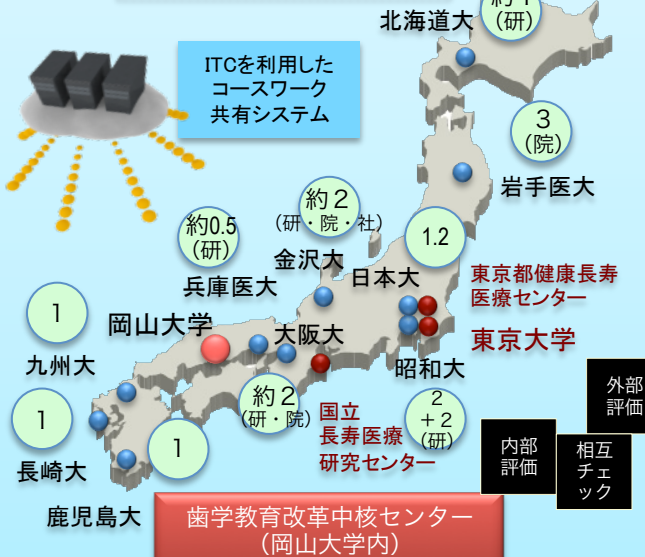
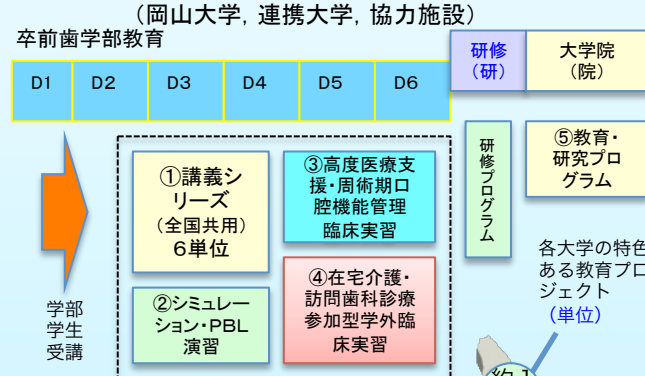
③高度医療支援・周術期口腔機能管理実習

○岡山大学病院周術期管理センターにおける多職種連携実習(右)
○昭和大学病院の医歯薬保健学部合同病棟実習など

周術期管理センターのメンバー



医療支援歯学教育コースワーク



歯学教育改革コンソーシアム: 11大学4協力施設
国立大学歯学部6校+歯学部が併設されている全私立大学歯学部
—教育効果の全国への波及、均てん化

解決方策

1. 共同授業に死生学や地域包括ケアの概念の導入
2. 医学教育と歯科技術教育の融合, 患者の機能低下にあわせた介入の選択
3. 岡山大学, 連携大学, 協力施設が協力して, 急性期病棟における周術期管理や在宅介護臨床実習を提供
4. 岡山大学, 連携大学, 協力施設が協力して, 全国統一電子化授業ライブラリーを作成し, 共有
5. 教育を支える臨床研究能力の開発, さらなる研究フィールドの確保

④在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習

○長崎大学の離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習, ○日本大学の摂食機能療法学学外実習, ○東京大学高齢社会総合研究機構 柏プロジェクト医療フィールド, ○岡山大学の老人介護施設や在宅訪問歯科診療参加型臨床実習(下図)等。



⑤高齢者の疫学研究フィールド

○東京大学の柏研究フィールド, ○大阪大学や東京都健康長寿医療センターのSONIC研究フィールドに歯科として積極的に参画し, 高齢者医療における多職種連携研究を進め, 健康長寿社会を担う医科歯科連携教育に反映する。

ITを利用した講義の共有(eラーニング), 各担当校間の教員および学生の相互交流, 主幹校(岡山大学)による全国規模のシンポジウム開催, 海外専門家の招聘講演